



発行  
天理教本愛大教会

〒453-0821  
名古屋市中村区大宮町 1-60  
TEL (052) 461-4326  
FAX (052) 461-4320  
〒632-0071  
奈良県天理市田井庄町 19-1  
TEL (0743) 62-0378  
編集責任 広 報 部

立教 182 年 活動目標

- 「恩報」の実行
- 初参拝の推進と新ようぼくの丹精
- 報恩感謝のおつくしの徹底
- 若者にご恩報じの心を伝えよう
- ◎一名称が本年まで三人の修養科生(守護頂上)
- ◎報恩感謝別席団参の実施(6月23日・11月24日)

# 身近な人をおぢばへ誘おう

## 報恩感謝別席団参、今月23日に実施

大教会では本年の活動目標の中に「報恩感謝別席団参」を掲げ、6月23日と11月24日の2回、別席団参を行う。

1回目となる今月23日の団参に向け、本愛ようぼく信者による別席者の丹精にも、より一層の拍車がかかる。

平成から令和へと元号が改まった5月、大教会では来る「報恩感謝別席団参」に向け、5日から12日を本愛布教推進週間と定めて、大教会を拠点に布教活動を展開。各教会でも布教日を定め、一人でも多くの別席者をご守護を頂こうと、それぞれが自分のできるに在り、おたすけに励んで

きた。 普段当たり前に使わせていただいている、自分自身のこの身体をはじめ、家族や友人知人、その他ありとあらゆるものは、全て親神様からのかりものである。私たちは、何不自由なく過ごさせていただけれることに感謝し、親神様のご恩をまだ知らない人々に、教えを



「本愛布教推進週間」中、大教会を拠点としてに在りが行われた

伝えていきたい。そして一人でも多くの方をおぢばにお連れし、別席のお話を聞いてもらえるよう丹精させていこう。

また私たち自身も、ここまで無事にお連れ通りいただいたことに対するお礼の心を持ち寄り、家族ぐるみ

でおぢばへ帰らせていただきたい。

身近な人をおぢばへ導くためにも、まず自分の周囲の方々に教会や布教所へ参拝してもらえよう、促すところから始めさせていこう。「初参拝」からおぢばがえりへとつなげ、ゆくゆくは別席を運んでいけるよう、丹精を続けていきたいものだ。

本年の活動目標にも定められている「初参拝の推進と新ようぼくの丹精」を通じて、お道の教えを一人でも多くの方に伝えさせていこう。ご恩報じの思いを胸に、勇んでに在りおたすけに励ませていただくことが、何よりも親神様・教祖にお喜びいただけることとなるはずである。

本愛につながる全ようぼく信者が報恩感謝の思いを胸に、勇んで帰り集う姿を、神様もおぢばでお待ちくださされている。

### 6月のこよみ

入 社 祭	1日 午前10時
祭典終了後、教会長連絡会 よふき会例会	2日 午前10時
月 次 祭	13日 午前10時
布教実修所	14日 午前9時30分
雅楽勉強会	15日 午前10時
女子青年例会	15日 午前10時
こはる会例会	15日 午前10時
むつみ会例会	16日 午前10時
婦人会 例会	20日 午前10時
報恩感謝別席団参	23日
本愛ようぼく錬成会	24日 午前 10時
修養科志願者面接 (於・本愛詰所)	25日 午後1時
本部月次祭	26日 午前9時
ほんあいキッズキャンプ	29、30日
青年会 例会	30日 午前10時



## 企画特別 若者に信仰を伝えるために

青年会委員長が聞く

少年会・学生担当委員会の取り組み(下)

**板山眞一・学生担当委員会委員長** 現代は、個性の尊重が最も大事にされる時代ですよね。もちろん尊重されて然るべきものですが、一方で、行き過ぎというふうに感じることもないわけではありません。

れる人材を育てるためには、どのように丹精すればよいのだろうかという問いに対して、私は明確な答えをまだ持っていません。極論かもしれません。

**LGBTどう考えるか**

**出口邦郎・少年会本愛団团长** 私も、悩むことがあります。たとえば、祭典日におけるおつとめは、自分の気の向いたときにするものではなく、皆が、日にちと時間を合わせて、心を揃えて勤めるものです。少年会の活動も、最終的な目標はそこにあると思います。

**安藤吉人・青年会本愛分会委員長** 難しい問題ですね。個性の尊重の延長線上にはLGBT(性的少数者の総称)の問題もありますね。

そのときに、個性ばかりが尊重されてきた人たちが、果たして教会でおつとめを勤めてくれるだろうか、あるいは個性を尊重しつつ将来の教会を担っていく

**板山** お道では夫婦の理、二つ一つの理合いが教えの根本にあります。そうした点については、青年会ではどのように考えているのですか。

**安藤** 最新のテクノロジーの一つに、「量子コンピュータ」があります。これまでに、コンピュータのように、「0」か「1」かですべてを計算するのではなく、「0でもあり1でもある状態」を持つことよって、これまでより1億倍も速い計算ができるそうなんです。

これは私個人の考えですが、「二つ一つ」という教理は絶対に間違いのない真理です。けれども、その事だけで世界の全てが説明されるのではなく、ある物事について、ある見方をすれば「二つ一つ」と説明できるし、また別の見方をすれば、「どちらでもない」あるいは「どちらでもある」ということも、あり得るのではないかと思うんです。

**出口** 卑近して考えると、板山先生の問いは、仮に私の息子が女性のおつとめを着ておつとめを勤めたいと言った時、どう答えるのが正しいのか、ということですよ。

**安藤** 先日、青年会のひのきしん隊にも性転換手術を受けた、生物学的には女性の方が来られました。対応を検討しましたが、

お道の教えの価値が、見直される時代になると思うんです。個性を尊重するあまり教会に足を運ばなくなるのではというお話がありましたけれども、私は「自分を受け入れてくれる所」に、人は集まると思います。

**板山** 「受け入れる」ことを前提にして、どう考えるかということですか。

**安藤** そうです。「あなたにもこんな陽気ぐらしができるよ」というふうに、それぞれの徳分を探して、私たちが開花させてあげたい。そのことで悩み、苦しんでいるわけですから。

「あなたはあなたでいいんだよ」と認めて、受け入れるというのが、教会の役割だと思っんです。

これからの時代は、これまで以上に人間の心や内面性がむき出しになる時代だと思えます。だからこそ、どんな人も受け入れるこの

お道の教えの価値が、見直される時代になると思うんです。個性を尊重するあまり教会に足を運ばなくなるのではというお話がありましたけれども、私は「自分を受け入れてくれる所」に、人は集まると思います。

**出口** 少年会としては、先日のニコリンピックに、子ども食堂に足を運んでくれている子供たちが参加してくれたことを、一つの成果だと感じています。教会に抵抗なく来てくれる人の増加。教会での思い出が、その人の人生をうまく運ぶ力になると思っています。

**板山** 学生たちには、信仰を深める意識を持って活動してほしいと考えています。そして、それはこちらが仕向けていかなければいけない。そのために私たちが努力しないといけないと思います。

**安藤** ありがとうございます。

教理随想

言わん言えんの理を探る



ようぼくの大切な使命の一つは、病む人におさづけを取り次ぐことです。言うまでもなくおさづけは、存命の教祖が働いてくださるものですが、それを取り次ぐ人や受け取る人の心がほこりで曇っているのは十分なこのうゝ効能は現れません。中でも、八つのほこりの五番目に教えられる「うらみ」のほこりはその典型で、「にくい」のほこりが心の中でくすぶり続けている状態です。教えに照らしてほこりを払うことが、身の上のご守護を頂戴するため

の大きな要因となります。説き分けによると、うらみとは、わが顔がつぶれたとて人を恨み、わが望みを妨げたとて人を恨み、誰がどう言っただとて人を恨み、銘々の知恵と力の足りないことや徳のないことを思わずして人を恨むのはほこりである。人を恨むことなく自分の身を恨むのがよろしいと教えられています。

人前で恥をかかされたり、面目を潰された悔しさは、なかなか消えるものではありません。しかしそんな時でも信仰者は、まず心を静めてその原因を振り返りた

ないよう注意することが大切でしょう。

世の中にはいつも愚痴や不満を言っている人がいます。しかし成ってきたことを他人や社会のせいにして、それを恨みに思っ

て長年通るのは実にうつとうしい生き方と言わざるを得ません。それを始終聞かされる方もたまりません。見方によつては言い訳や責任逃れにも聞こえます。いつまでも過去の事柄にこだわっている、これから拓かれるべき運命をも潰してしま

いんねんの自覚

みかぐらうたの中で、むごいことばをだしたるもはやくたすけをいそぐから (十下り目6) なんぎするものもころから わがみうらみであるほどに (十下り目7) と教えられます。

つまり信仰的に考えれば、人を恨みたい気持ちになつたときには、まず自身を振り返ってみる。果たして自分はすべきことをしてきたか、自分にそれだけの實力があるだろうか、それだけの徳分があるのだろうか、などと自らを振り返ることを忘れてはなりません。あるいはまた、人の恨みを買うようなことをしてこなかったか、という反省をしてみることも必要であります。

さらには、今生一代では思い当たることなくても、前生で人を苦しめることがあつたかもしれないと前生いんねんのさんげをし、たんのうの心を治めながら思案を深めていくことが、その先の運命を良い方向へ転換していく大事なカギとなるのであります。

また人を恨んだり世を恨んだりするのは、恩を感じる心が薄いからであるともいえるのではないのでしょうか。たとえ心ない仕打ちを受けたたり、不運な目に遭遇したとしても、もつと広い目で見れば多くの人々のおかげで今日があり、何よりも絶大なる親神様と教祖のご守護によつて生かされてい

るといふ現実を忘れてはなりません。

恨みに思う心は消えないにしても、少し目を転じて、これまでに受けた恩を冷静に数え上げてみてはどうでしょうか。教えを基準として心のわだかまりやくすぶりをなくすことも、ようぼくとしての成人には欠かせない努力であります。

このさきわどのよなみちがあるとても 人をうらみなハがみうらみや

【第54回】

うらみのほこりは心の燐り 報恩の信仰を思い起こそう

くすぶ

### 学生たちが大教会周辺を清掃

#### 5・3にちなみ ごみ拾いを実施

本愛学生会では5月3日の例会日、大教会周辺でごみ拾いのひのきしんを行った。

天気にも恵まれひのきしん日和となったこの日、集まった学生たちは、午前10時30分過ぎにひのきしんを開



丁寧に道端の小さなゴミも拾う会員たち

始した。

舗装をされた大教会近辺の道路は、一見すると綺麗に見える。しかし学生らには道路側溝の蓋の周辺や、住宅の地境にたまったごみや空き缶などを収集。短時間のうちにいくつかがごみ袋はいっぱいになり、ゴールデンウィーク中のこの日、学生たちはひのきしんの汗を流した。



ひのきしんの後にはみんなでたこ焼きパーティー

## 第939期 修養科生大募集

面接 6月25日 午後1時 於 本愛話所  
※6月20日までに神殿事務所へお申し込みください

### みんなで野外活動を楽しもう

6・29～30 ほんあいキッズキャンプ

少年会本愛団では、奈良県宇陀郡にある「国立曽爾青少年自然の家」にてキャンプ活動を行う。

このキャンプは、雄大な大自然の中で親神様のご守護を肌で感じ、日々の恵みに感謝することを目的に開催される。



去年のキャンプの様子。カレー作りに挑戦した

期 日・6月29日(土)

30日(日)

対 象・小学1年生から

中学3年生まで

費 用・3500円

申込締切・6月13日

#### 青年会

### ちばへ伏せ込み、真実の汗を流そう

本愛分会、ひのきしん隊入隊者を募集

本愛分会では、7月に「おやさとふしん青年会ひのきしん隊」に入隊する。

今回のひのきしん隊は期間が例年より短く、1日から17日間の入隊となる。また、昨年からは始まった三日隊は7月5日から7日までとなっている。

期間中は、親里周辺の整備に関わるひのきしんや子どもおちばがえりの準備もおちばがえりの準備。また宿舎では修練やいかけなどを行う。

参加御供は、一カ月隊は3千円、三日隊は1千円となっている。申し込みは大教会センター室まで。

### ハイタイム

先月からテレビや新聞で大きく報道されている、大津市で起きた幼児を巻き込んだ事故。運転手は前をよく見ず運転をしていたという▼車を運転するにあたっては、誰もが無事故無違反を目指したいもの。特に交通事故は、時に人の命を奪ってしまう恐ろしいものだ▼交通事故の主な原因は「思い込み」「ぼんやり」「判断の遅れ」などの慢心によるものがほとんどと言われ、技術不足ではなく、心構えの悪さからくることが多いという。特にイライラしている時や時間がなくて焦っている時は運転が荒くなり、事故を起こしやすい▼「私は大丈夫」と自分の実力を過信しすぎてはいないだろうか。この機会に、今一度自分を見直し、慢心することのないよう心掛けたいと思う。

4月の中席者数

(5月20日提出分まで)

本道橋 1 本美郷 1  
本愛慶心 3 以上5名

4月の初席者

本宏 (本宏津) 西部 昌子  
本知 (本正徳) 伊佐治 忠  
名愛 佐藤 麗  
本修徳 福家 侑紀  
本清明 森 由紀子  
本愛湊 杉本 健  
本愛岳 中山 昌知  
" 石鉢ユリ子  
以上8名

本愛福分教会二代会長

岩下春正之霊の二十年祭

本愛福分教会二代会長夫人

岩下幸江之霊の二十年祭

本愛福分教会では4月28

日午前11時より、二代会

長・岩下春正之霊の二十年

祭並びに、二代会長夫人・

岩下幸江之霊の二十年祭

が、世話人・松浦道太郎役

員を祭主として同分教会で

行われた。

本耕分教会

躍進の集い開催

本耕分教会では5月5

日、月次祭の後に躍進の集

いが開催された。大教会長

夫妻を来賓として迎え、多

数の信者たちが参集して、

賑やかに執り行われた。

おめでた

水野真生さん(27) (本正行

分教会長・水野和好氏長

男)は、安藤吉人氏夫妻の

媒酌により小野木綿子さん

(25) (津軽大教会部属・奥陽

分教会ようぼく・小野芳雄

氏二女)との縁談相整い、

去る4月28日、世話人・青

お詫びと訂正

5月号6頁、修養科修了

者、「本一宮(本尾州)山

内祐未加」となっておりま

したが、「本一宮(本尾州)

山内祐未加」の誤りでした。

ここに、お詫びして訂正い

たします。 教務部

若いお父さん・お母さんへ

家族ぐるみで

教会へ参拝しましょう

婦人会・青年会・少年会からの提唱



木健裕役員主礼のもと大教会教祖殿において、夫婦固めの盃をかわし華燭の典を挙げた。

大教会日誌

平成31年4月25日～令和元年5月24日

4月

26日 本部月次祭  
29日 全教一斉ひのきしんデー  
30日 常任役員会議◇役員会議

5月

1日 入社祭  
祭主・大教会長 扨者・都築隆道、大倉光晴  
指図方・板山公司 賛者・伊藤寿輝、松原 悟  
◇おたすけ講話―津田豊郎  
◇教会長連絡会  
2日 よふき会例会  
おつとめ・十二下りてをどり、連絡会  
3日 学生会例会  
おつとめ・ゴミ拾い・レクリエーション  
5日 本愛布教推進週間 (12日まで)

5日 雅楽勉強会  
13日 月次祭  
祭主・大教会長 扨者・筑紫英一、杉村善男  
指図方・板山公司 賛者・安井 篤、杉下和平  
◇祭典講話―出口道男  
◇大教会長挨拶  
14日 布教実修所  
16日 むつみ会例会  
17日 こども食堂MOGU (参加者45人)  
19日 青年会例会  
20日 天理教婦人会本愛支部第91回総会  
女子青年例会  
こはる会例会  
23日 おはなし会  
24日 本愛ようぼく錬成会